

奈良県の医療の現状と今後

～ 将来にわたり県民が安心して医療を受け続けられる体制の整備のために ～

令和7年11月29日

奈良県知事 山下 真

1. 医療提供体制の整備
2. 医療ニーズの変化に対応した
地域医療構想の推進
3. 医師、看護師を取り巻く状況
4. これからの方向性

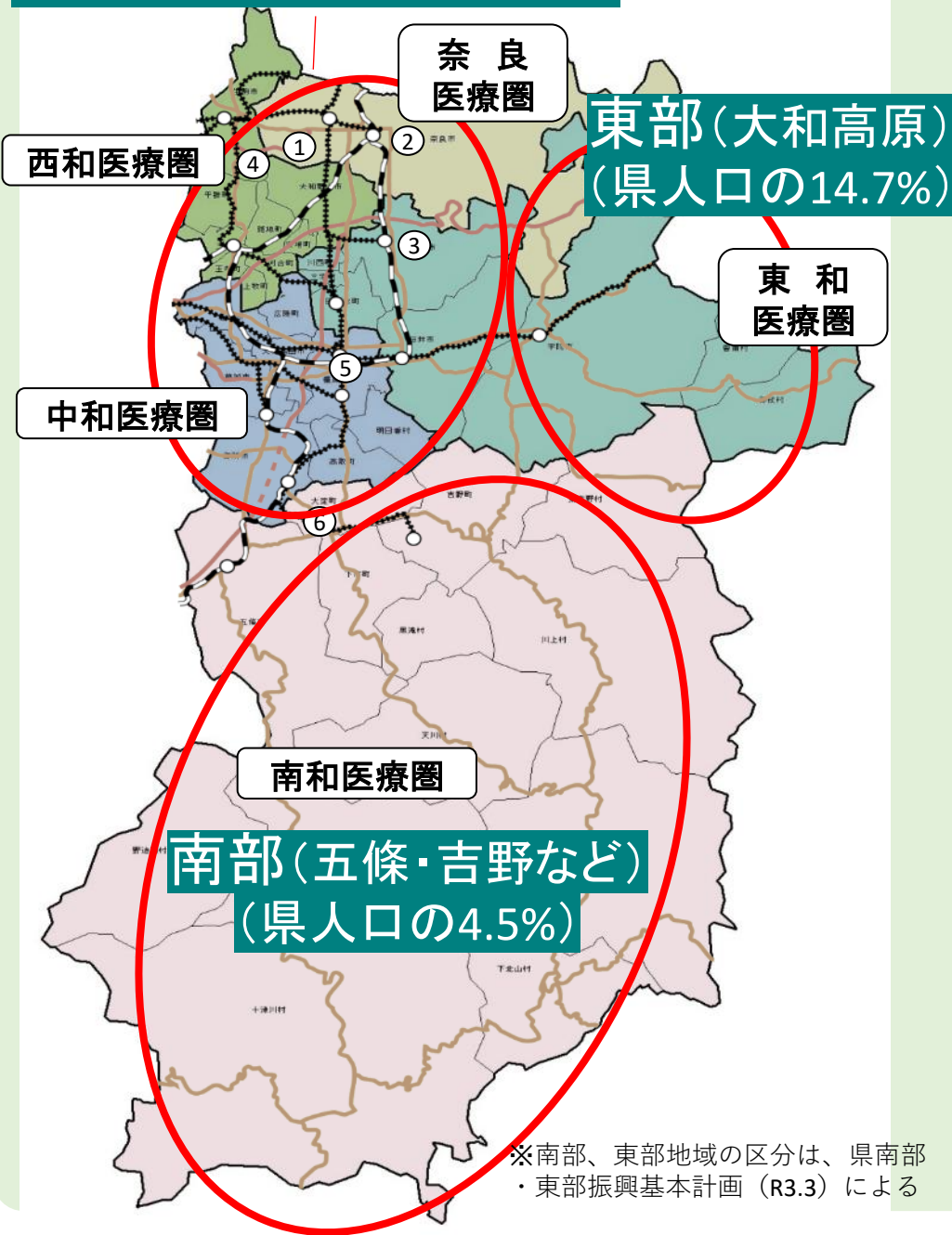
1. 医療提供体制の整備

2. 医療ニーズの変化に対応した
地域医療構想の推進

3. 医師、看護師を取り巻く状況

4. これからの方向性

大和平野(県人口の80.8%)



※南部、東部地域の区分は、県南部・東部振興基本計画(R3.3)による

保健医療圏の状況

保健医療の基本単位として、5つの地域を設定

二次保健医療圏	人口 (単位：人)	面積 (単位：k㎡)	病院数
奈良	345,758	276.9	22
東和	187,218	657.8	12
西和	328,356	168.5	18
中和	357,428	240.8	19
南和	57,405	2,346.9	4
計	1,276,165	3,690.9	75

令和7年1月県市町村別人口推計

各保健医療圏 病床数の多い急性期病院

奈良	①奈良県総合医療センター(540床)
	②市立奈良病院(350床)
東和	③天理よろづ相談所病院(715床)
西和	④近畿大学奈良病院(518床)
中和	⑤奈良県立医科大学附属病院(992床)
南和	⑥南奈良総合医療センター(232床)

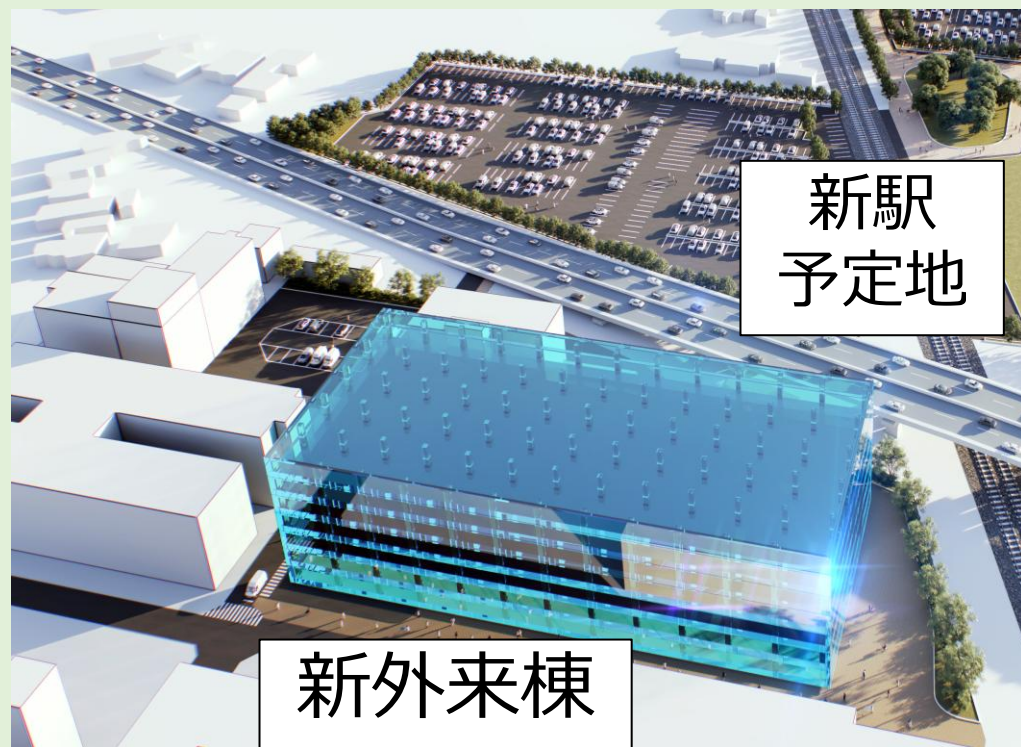
医大附属病院の新外来棟の整備

令和13年度の竣工を目指して、
県立医科大学附属病院の新外来棟（新A棟）整備
を進めています。

診察室や待合スペースの拡張、
外来と検査室の配置の見直し
により、**利便性が向上**

病床転換可能なエリアを確保
し、**大規模災害や新興感
染症発生時への対応力を
強化**

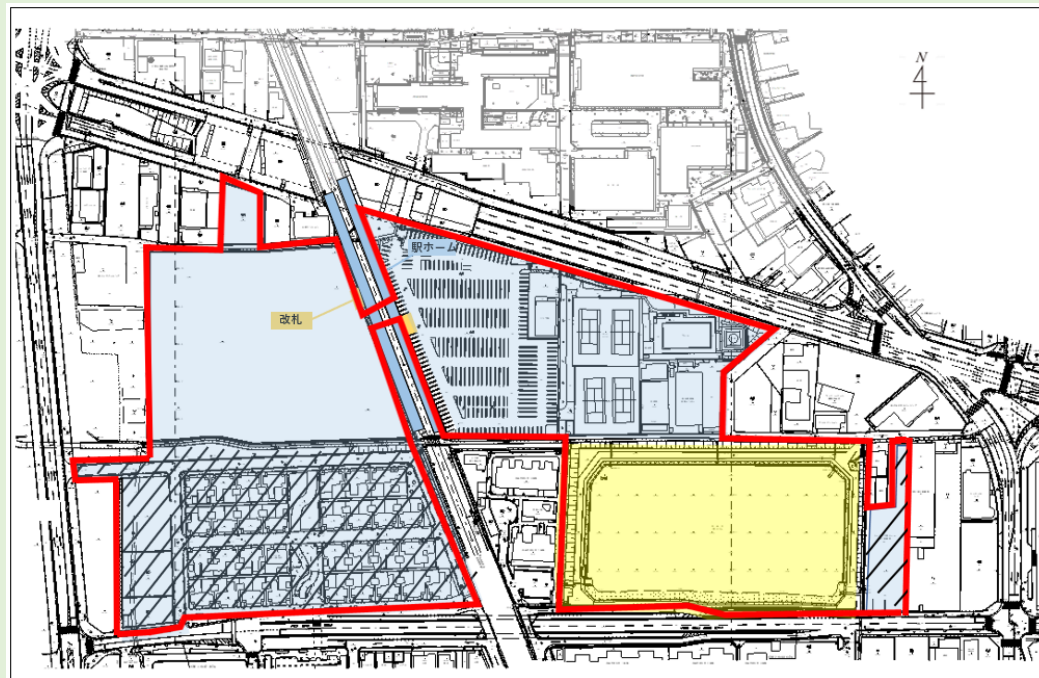
近鉄橿原線新駅の整備により、
アクセス性が向上



※イメージ図

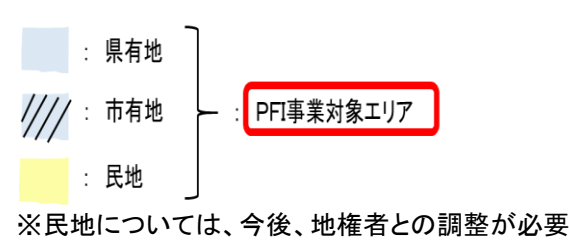
(仮称) 医大新駅周辺まちづくりについて

民間活力を導入し、(仮称) 医大新駅周辺のまちづくりを一体的に進めていきます。



11月4日にPFI事業 エリア案を決定

令和8年度から、プロジェクト
チームを設置し**取組体制を強化**
新たな事業候補地の追加により、
民活による、より魅力的な
まちづくりの可能性が高まる



奈良県総合医療センターの移転開院

平成30年に、奈良県総合医療センターが奈良市内に移転開院しました。

「断らない病院」として**救急医療が充実**し、周産期医療やがん医療などの**高度医療が格段に良くなりました**。



奈良県総合医療センター



中央ホール



放射線治療室

新西和医療センターの整備

J R 法隆寺駅南側地区で整備を進めています。

新しい西和医療センターは

**災害拠点病院、第二種感染症
指定医療機関**の指定を目指す

**屋上ヘリポートを備えた免震
構造とする**

早期移転・開院に向けて

**用地取得に向けた関連手続き
を実施**

今後、設計に着手



奈良県立病院機構の現状と今後の方向性

平成26年4月に、地方独立行政法人として設立。

高度急性期から回復期まで機能の異なる3つのセンターと、医療人材の確保・育成を担う2つの教育機関を運営しています。



総合医療センター（高度急性期医療：540床）



西和医療センター（急性期医療：300床）



総合リハビリテーションセンター
（回復期医療：100床）



奈良看護大学校



医療専門職教育研究センター

＜目指していること＞
（第3期中期目標：大項目）

- I. 最適な医療の提供
- II. 地域の医療力向上への貢献
- III. 優れた人材の確保・育成
- IV. 安定した法人経営

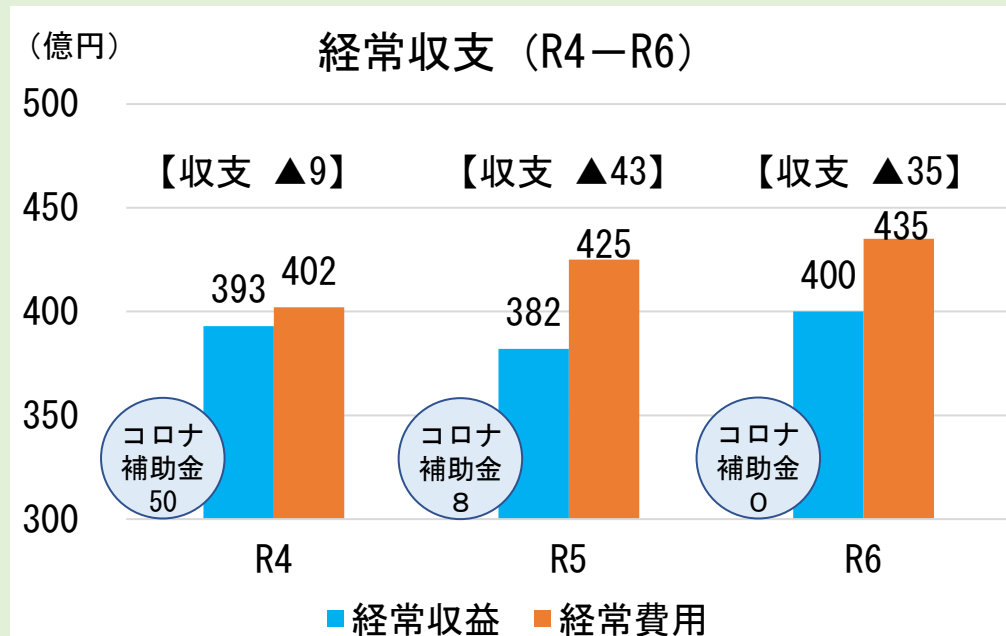
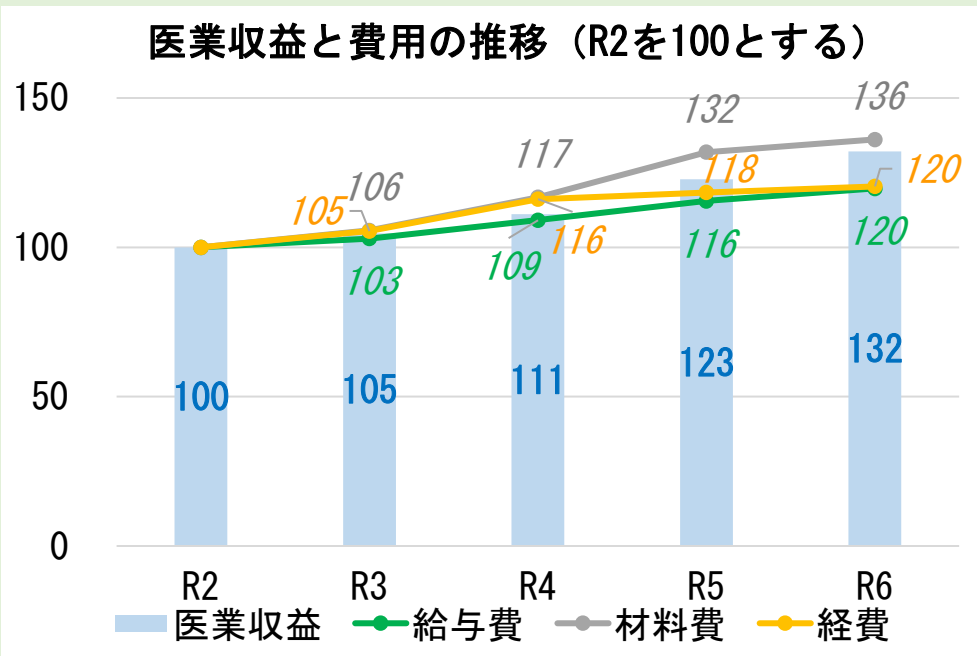
奈良県立病院機構の現状と今後の方向性

経営状況

コロナ禍以降の5年間は、高度医療や救急医療が充実し、**医業収益は毎年増加**

一方、物価高騰の影響を受け**医業費用も毎年増加**

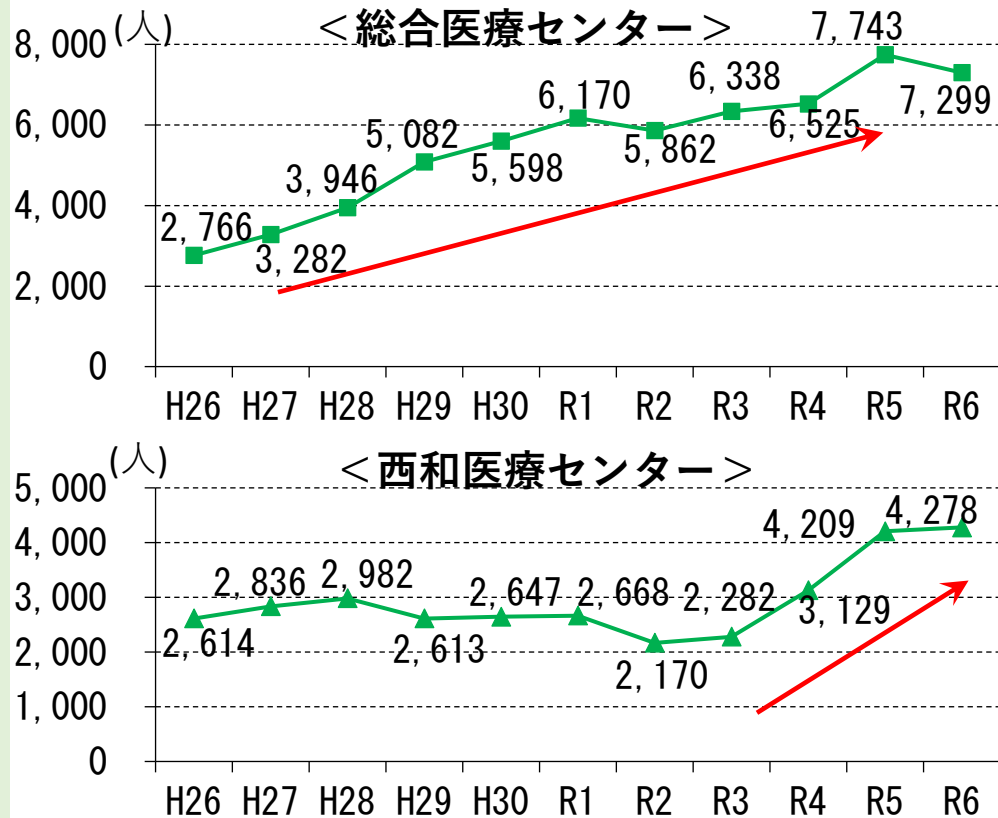
経営状況はコロナ禍後の令和5年度は非常に厳しい状況であったが、**各種取組により改善傾向**



奈良県立病院機構の現状と今後の方向性

経営改善の取組

【救急受入人数】



受入増加により病床稼働率が向上

【R 6 ・ R 7 の各種取組】

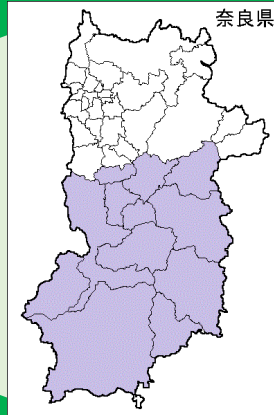
- ・ 土曜日手術の拡大
- ・ 祝日検査の拡大
(放射線関係)
- ・ 休床病床の活用
- ・ 診療報酬請求体制の強化
- ・ 有料個室稼働率向上

南和広域医療企業団の取組

平成28年4月に、公立3病院の統合再編により設立。

「南和の医療は南和で守る」を基本理念とし、急性期から回復期、在宅に至る**一体的な医療を提供**しています。

南奈良総合医療センター（急性期医療・回復期医療）



五條病院（回復期医療・慢性期医療）



吉野病院（回復期医療・慢性期医療）



- ・奈良県・五條市・吉野郡 **11 町村**による**共同経営**
- ・**ドクターヘリが常駐**し、24時間365日「断らない救急」に取り組む
- ・地域の医療を支えるため、南奈良看護専門学校を運営

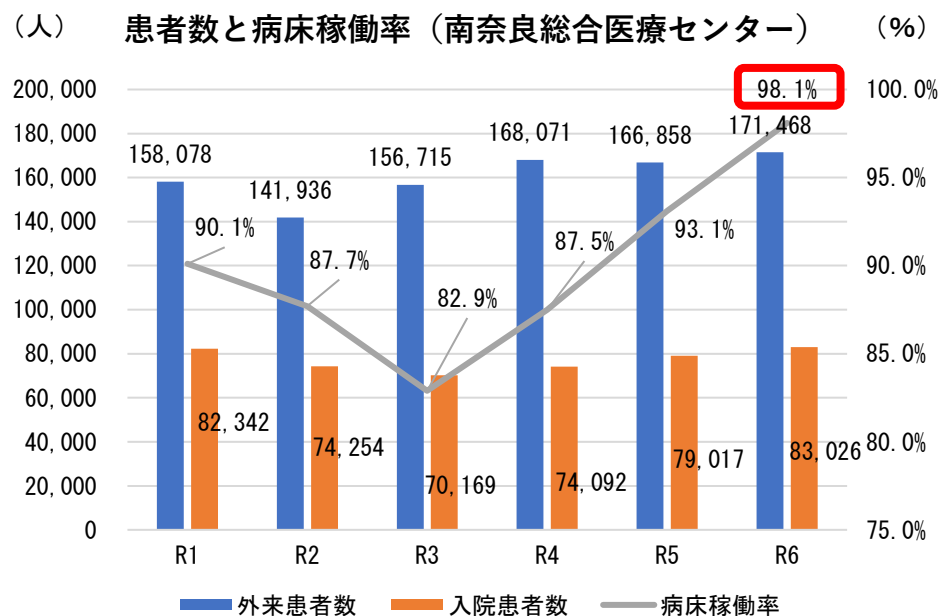
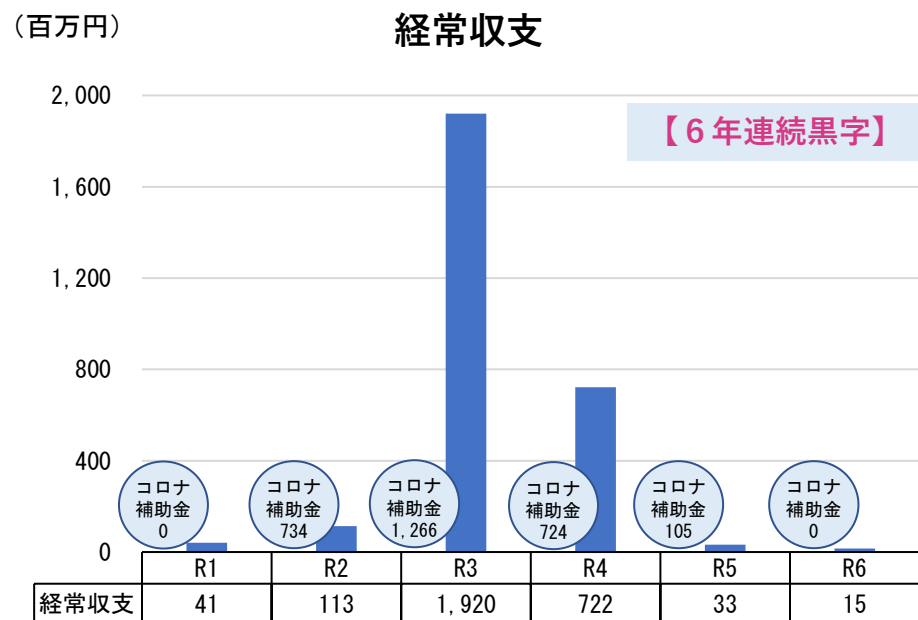
南和広域医療企業団の取組

経営状況

令和元年度から令和6年度まで **6年連続の黒字**

令和6年度の南奈良総合医療センターの**病床稼働率は98%**

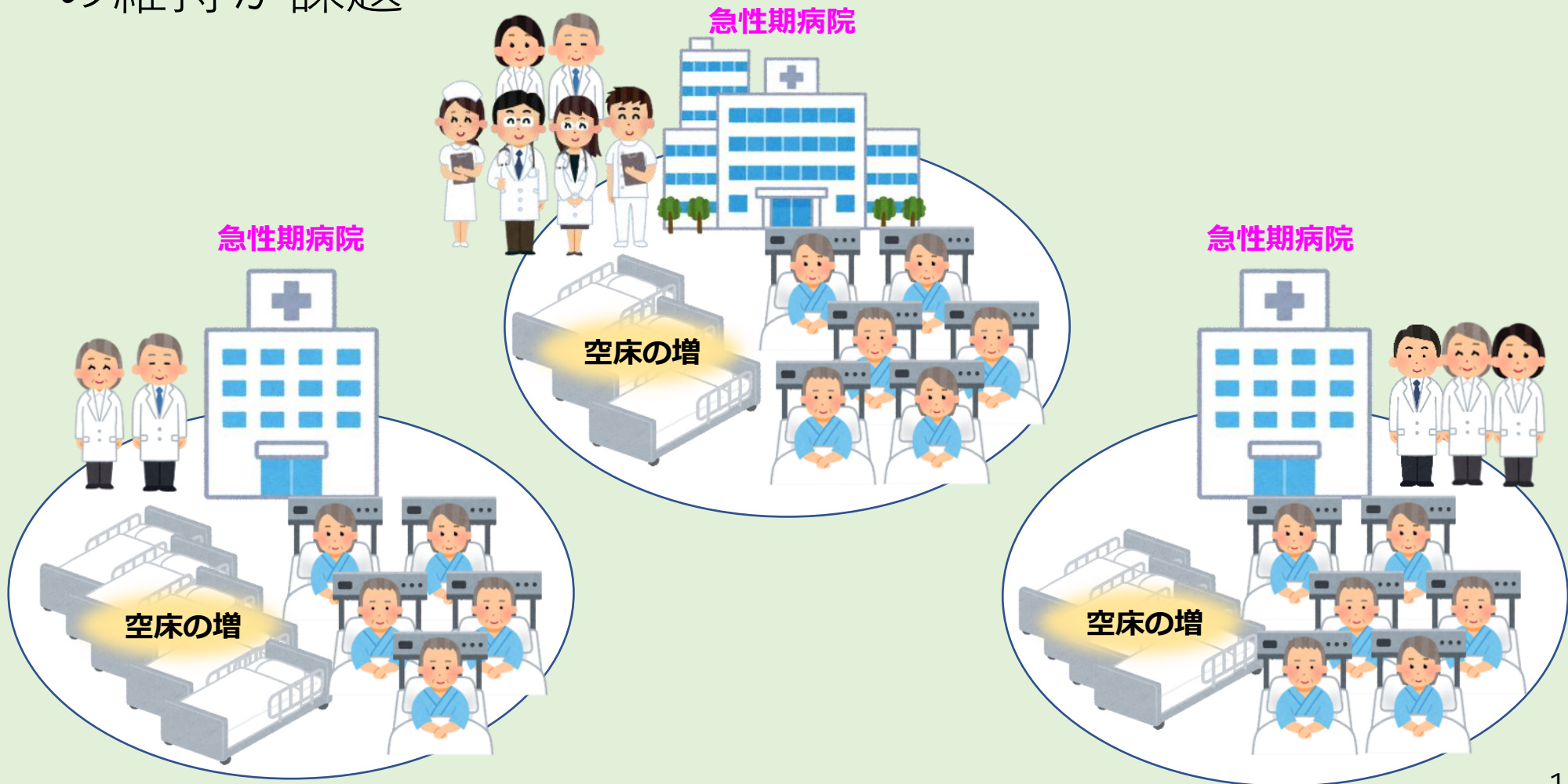
令和6年度の南奈良総合医療センターの1日あたりの**入院・外来患者数が、それぞれ過去最高を記録**



1. 医療提供体制の整備と推進
- 2. 医療ニーズの変化に対応した
地域医療構想の推進**
3. 医師、看護師を取り巻く状況
4. これからの方向性

これまでの医療供給（医療機関）の状況

- 同じ機能の医療機関が地域に複数あることで、患者や医療従事者が分散し、病院経営の悪化や症例数減により質の維持が課題



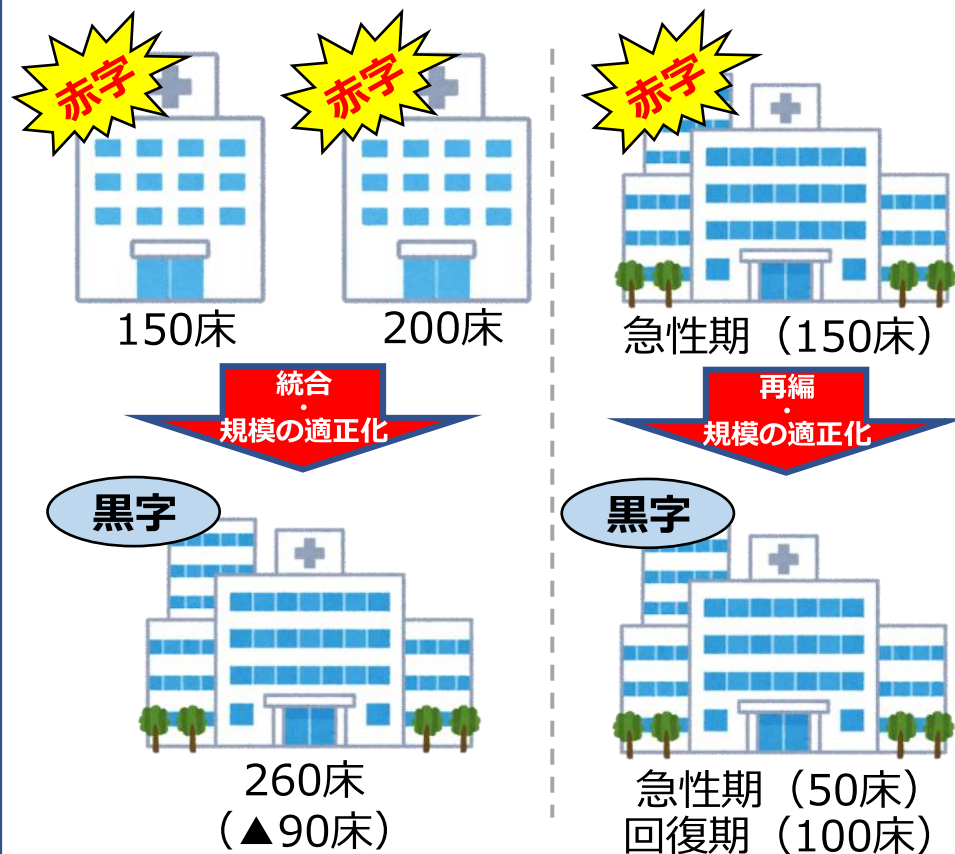
これまでの取り組み

地域ごとの役割分担や統合・再編が必要に

① 役割分担の明確化



② 統合・再編



これまでの取り組み

県内3つの公立病院（急性期）を統合・再編（H28）

- 1つの救急病院（急性期）と2つの地域医療センター（回復期・療養期）に**役割分担し、医療提供体制を再構築**



南奈良総合医療センター
（急性期・回復期）

・ 救急搬送受入数(件/日)

5.7 → 9.6

・ 病床稼働率

65% → 92%

※上記はいずれも再編前（H27）と再編後（R1）との比較



吉野病院
（回復期・慢性期）



五條病院
（回復期・慢性期）

これまでの取り組み

医療機関機能をコンセプト化し、目指すべき姿を共有

- ・ 緊急で重症な患者を受け入れる役割等を担う「断らない病院」と地域の医療・介護事業所との連携等を強化する「面倒見のいい病院」とし、それぞれの機能を強化

「断らない病院」



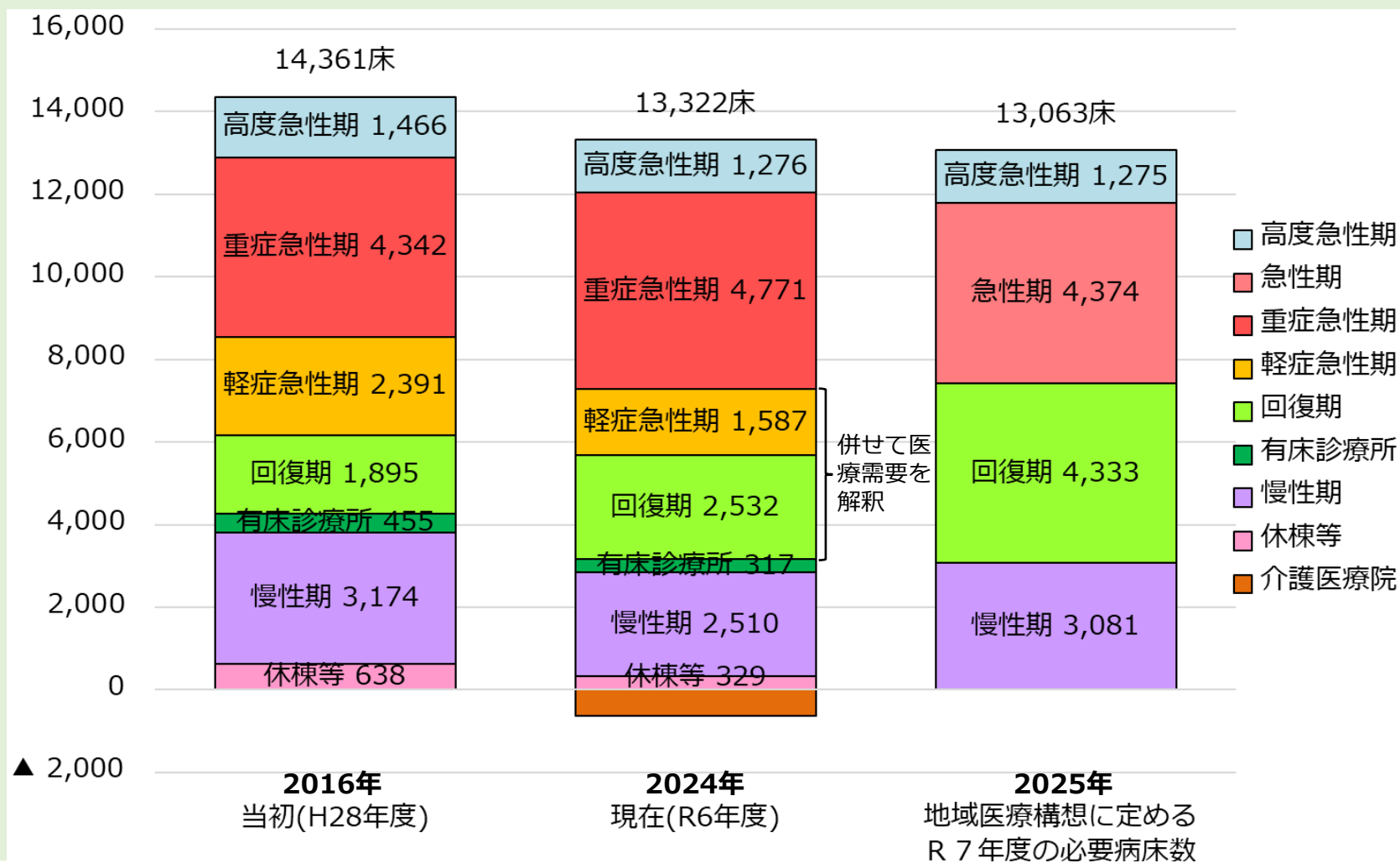
連携強化

「面倒見のいい病院」



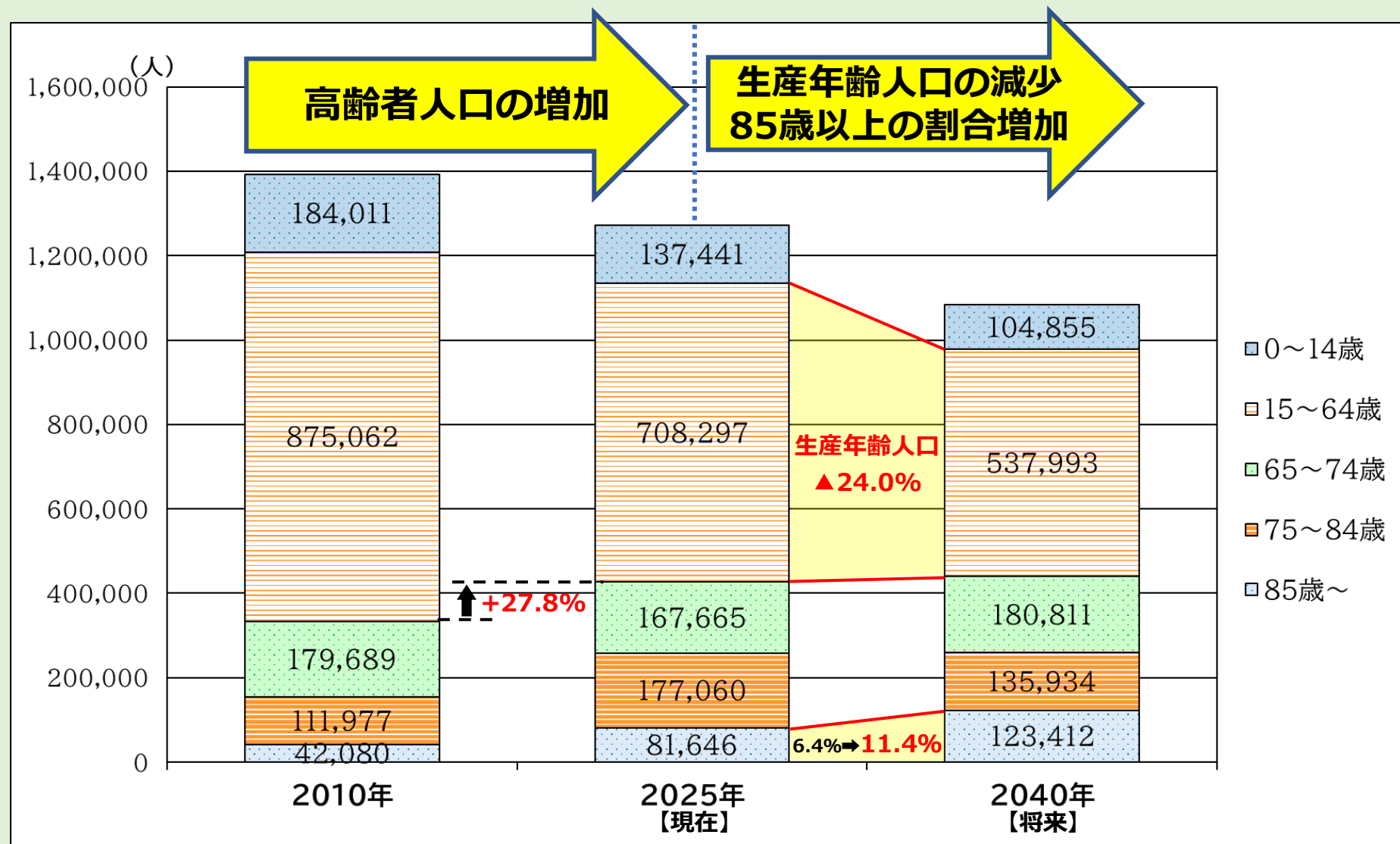
これまでの取り組み

- 機能分化・連携の推進により、地域医療構想に定める令和7（2025）年度の必要病床数と概ね一致



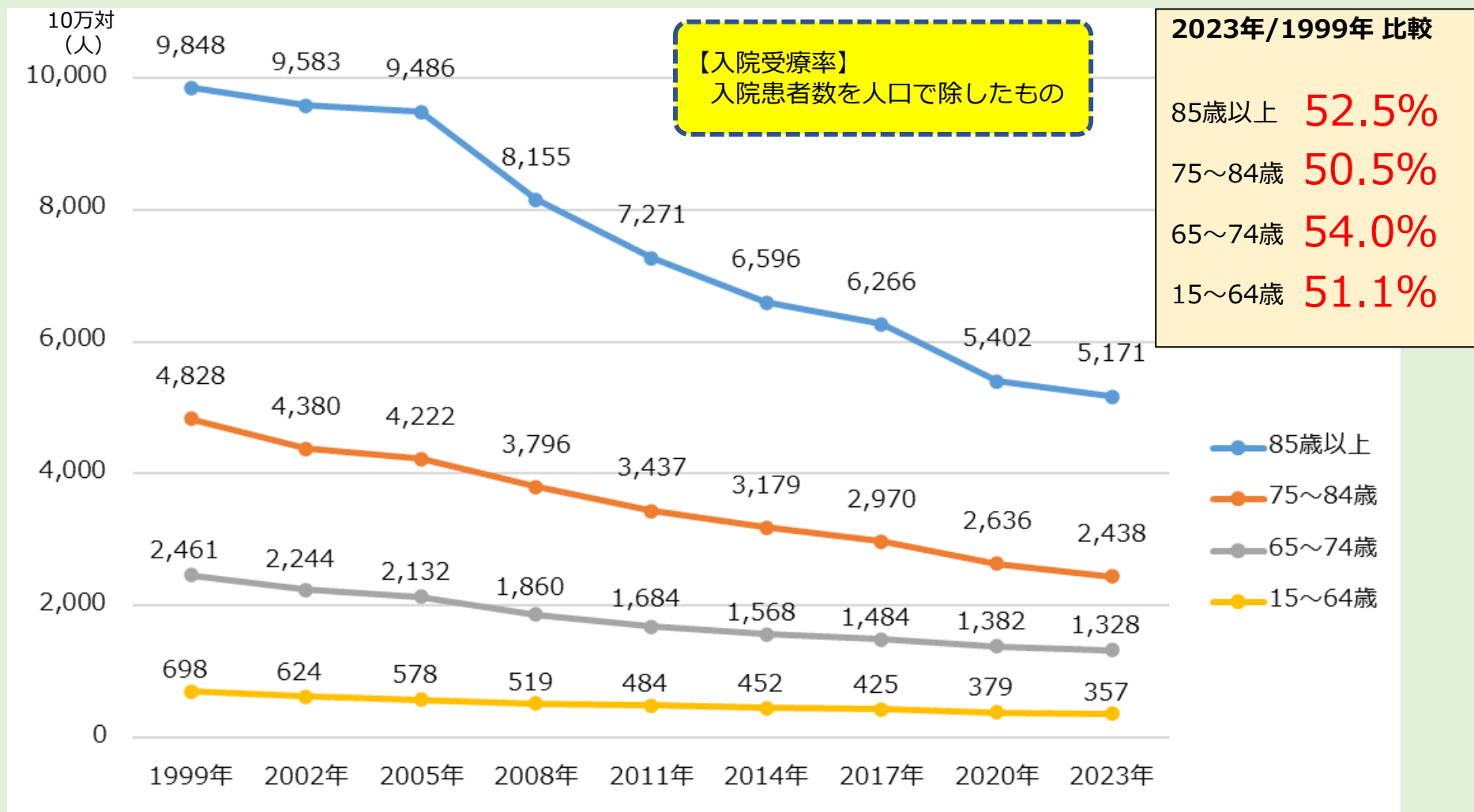
人口構造の変化

奈良県の人口推移



医療需要の変化

- 入院受療率は減少を続けており、今後も同様の可能性

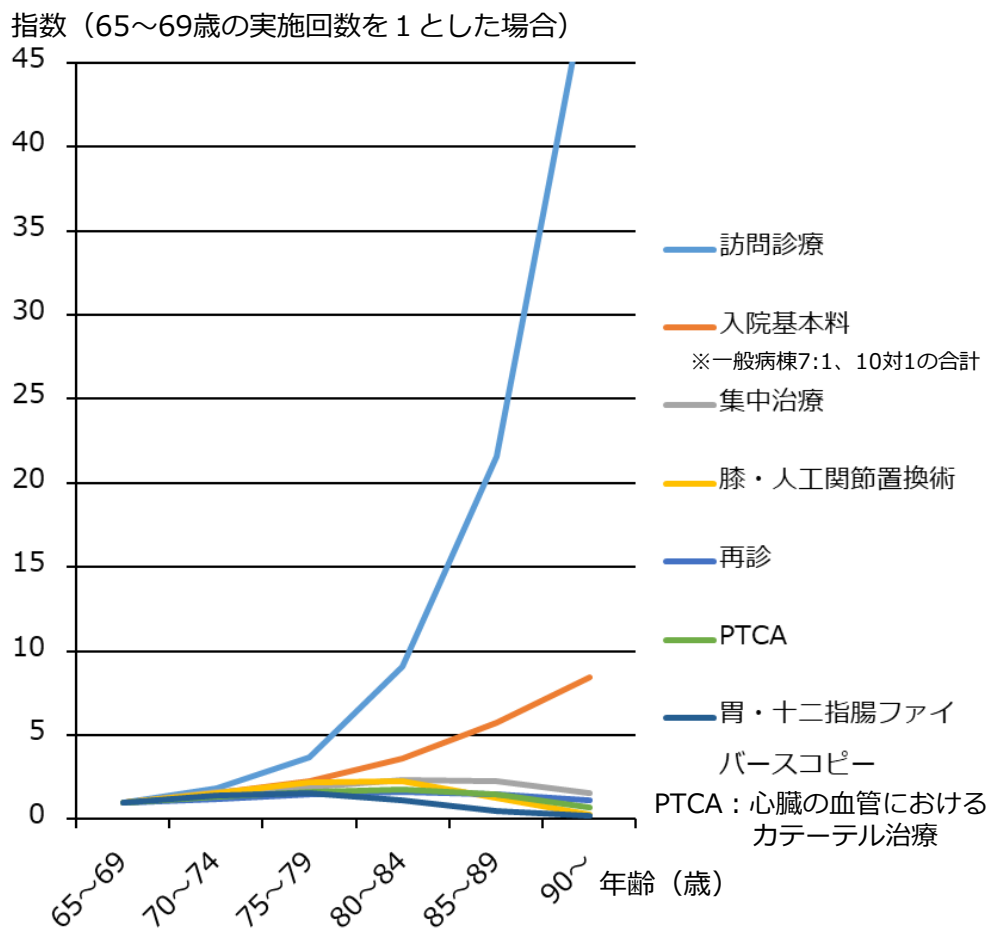


出典：厚生労働省患者調査（推計患者数の年次推移）を総務省人口推計（各年）で除したもの

医療需要の変化

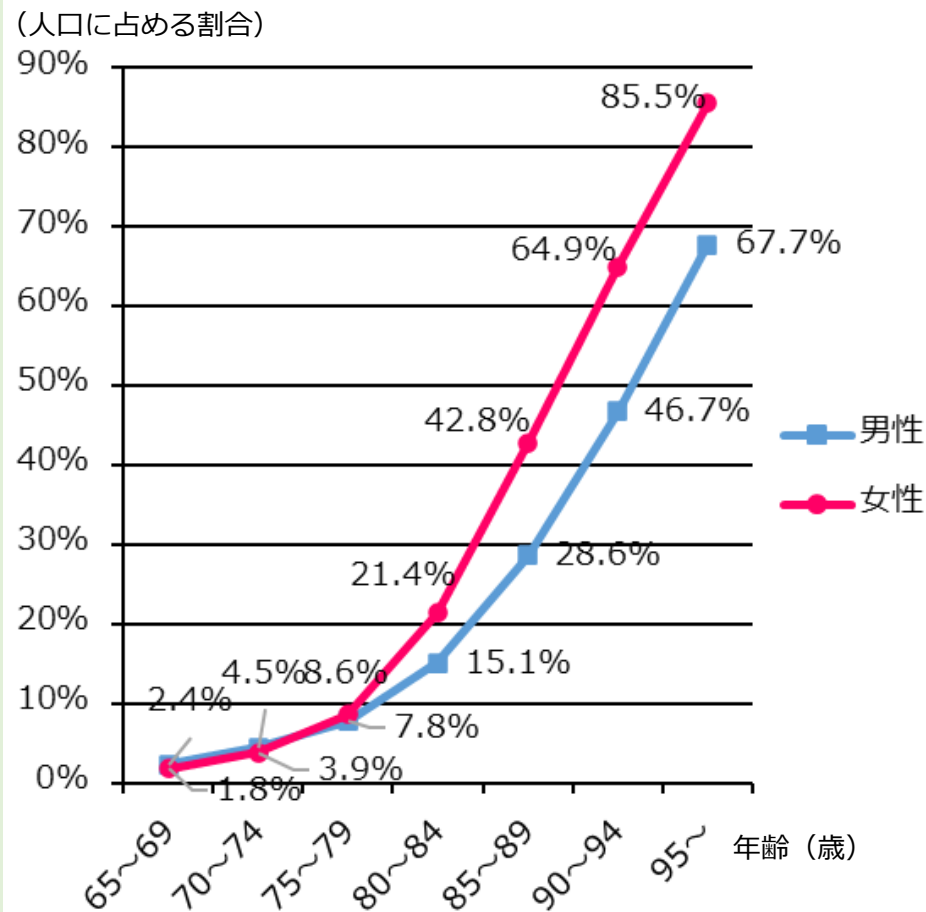
- 85歳以上人口の割合が増加することで、訪問診療や介護サービスの需要が伸びる

医療行為の実施回数の人口比



出典：社会医療診療行為別統計（令和6年）を総務省人口推計（令和6年10月分）で除したもの

介護サービス受給者の人口比



出典：介護給付費実態調査（令和6年度）を総務省人口推計（令和6年10月分）で除したもの

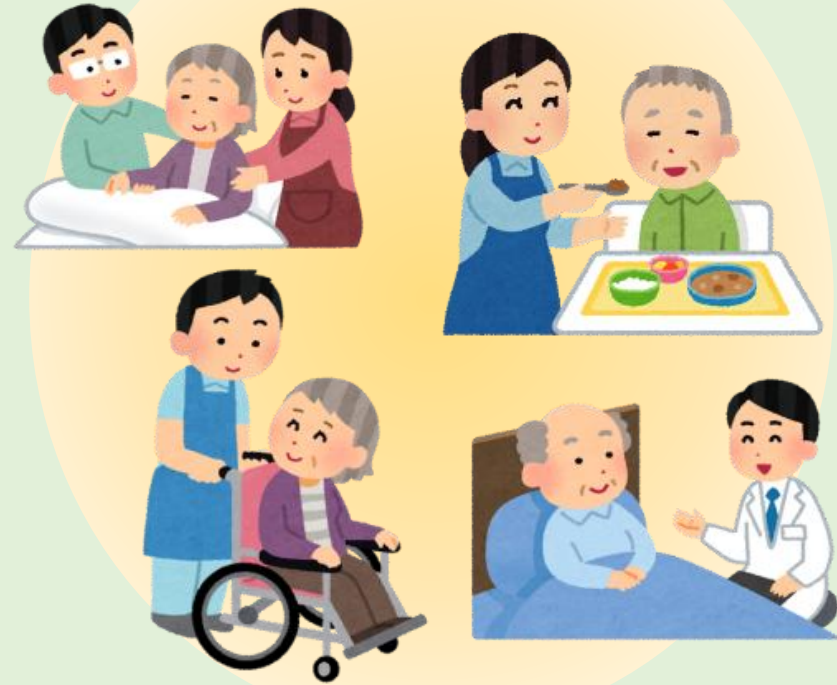
医療需要の変化（まとめ）

高度な治療を要する
患者数は増えない



>

治療とともに介護を要する
患者（割合）は増える



➡ いずれはそれも減少局面へ…